

COLUMN

鎌倉の猫事情 第五十三話

空が高くなって、小道を歩く自分の影が長くなってきました。先日、小町通りの裏路地で、ご近所の奥さんとなんやかやと立ち話に夢中になっていると、どこからともなく可愛い赤とんぼが飛んできて、ちょうどその時、何やら指差したその奥さんの指にとまりました。ちょっとひと休みでもするつもりだったのでしょか。驚いて顔を見合わせた私たちを尻目に、またその赤とんぼはふわ～と飛び上がっていき、その飛んでいった先を見上げると、私たちの頭の上を路地を横切る形で通っている電線にとまったのです。そこにはもう先に1、2、3、4、羽の赤とんぼが止まっていて、合計5羽の赤とんぼが綺麗に並びました。なんともん気な光景です。

さて、うちの猫家族も秋にはそれぞれの行楽の予定でもあるのでしょうか？ 天気の良い日には、今まで家の中にぐずぐずしていた猫どもの姿が見えませんが、どこかふらふらと出掛けています。

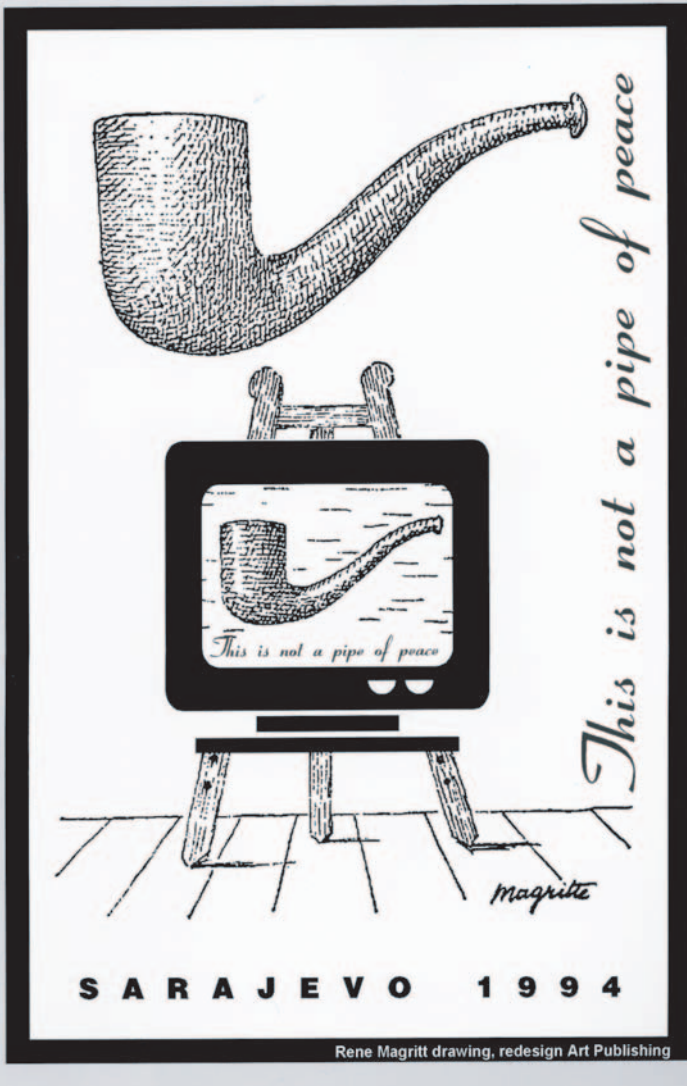
しばらく前から姿を見かけなかった、我が家の長女すみれの行方も心配していますが、ミルクホールのスタッフに、「今朝、厨房の裏に現れてちょっとご飯を食べて行きました」とか、いつかの晩にはこのあたりの塀の上にはいたとか、色々な情報も入り、まあ、元気に暮らしているのだらうとは思っていましたが、実際、意外な事件から、すみれの住みかが判明することになったのです。

ある晩のこと、お隣になんとか住み着いてしまった、長男のクウが、隣の門の上にいるのを見かけたので、「ずいぶん久しぶりじゃないの？ ちゃんと元気に暮らしてるの？」と、声を掛けると、なんとなく様子がおかしく、クウが起き上がって2、3歩歩く姿を確認して、あっと息を呑みました。下から見上げたクウのお腹から後ろ足の内側まで、血だらけになっているのが、夜の街燈の明かりではっきり見えたのです。よくよく見ると、両耳の付け根も血だらけで、まるで今にも耳が落ちそうになっているように見えます。あまりの変わり果てた姿にぼう然と見ている私の顔を、困った顔でちらと見下ろすと、塀つたいに走り去ってしまいました。クウはグーニーと違って生来気の弱い猫です。あんな傷手を負うような激しい喧嘩をするわけがないのです。原因を考えれば、猫世界に蔓延するアレルギーをこじらせてしまったとしか考えられません。

主治医の獣医さんから、「毎年予防接種に来て下さい」と言われていたのです。うちでちゃんと面倒見られなかったばかりにこんなことになってしまった……と今更後悔しても始まりません。お隣のご主人もさぞ、困っていらっしやることでしょう。どうかしなくちゃ。

ともかく、お隣の家に明かりが見える時に、訪ねてみることにしました。

to be continued



René Magritte drawing, redesign Art Publishing

Slope

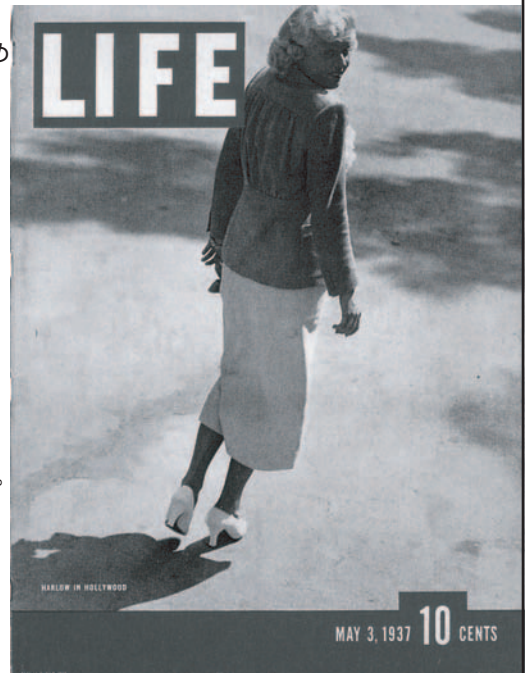
切通しの幽霊

数日降り続いた雨がようやく上がり、どんよりとした鼠色の空の裂け目から光りが差し始めている。私は、早足でもかく通り過ぎてしまおうと、切通しの坂を上っていった。今にも崩れ落ちそうな岩山が、ぬかるんだ山道にのしかかっている。岩肌のあちこちから羊歯が垂れ下がり、この数日間にため込んだ水滴を滴らせている。こんな風に薄暗い日の切通しは、いっそう気味が悪い……

まして、私は先日奇妙な体験をしていた。街の中を歩いている時、ふと前を見るとどこかで見覚えのある男の後ろ姿を見かけた。気になって、私は彼の後をつけた。すると、男は一度私を振り返り、肉屋とお茶屋の間の路地に消えた。私が急いでその道を曲がってみても、もう彼の姿はなかった。不思議なことに、私は彼に見覚えがあるのだ。彼のその装束はまるで、何百年もまえの……昔の男がいったいどんな衣服を身に着けていたかは知らないが、現代人の様子ではない。それにもまして奇妙に感じた事は彼に生きた心地がなかったところだ。私が彼を以前見かけたのは私自身の夢の中なのである。それは現実ではない。私はその夢の中で、やはりその男を追いかけていた。夢の中のその男は、時折私を振り返りながら、どんどんと歩いて行き、今歩いているような山の中へと入って行って切通しの坂で消えた。その時何度か振り返った顔だけが私の記憶に刻まれた。その夢は私の中に幾度も現れた。

今日だけは私はどうしても彼に会いたくない……切通しの坂の天辺はもうすぐだ。ひんやりと冷たい空気、先ほど差し始めた光も、ここまでは届いてこない。背中に冷たい汗が流れるのを感じて立ち止まった。切通しの大きな岩山にもたれかかり、呼吸を整える。文字通り切り取られ、通した山は荒っぽくごつごつとしている。今まだここを削り、通っていった昔の人達の気配が、息遣いが、声が、残像として残っているような気がする。私は目を閉じその気配を感じ取っていた。

夢の男は、私に言った。
なぜ、貴方は私の夢になんども現れるのですか？
君も、私の夢に出てきたからだよ。君が私を呼んだんじゃないのか？
貴方は、誰です？
私は君だよ。ずっと昔のね。ほら私をよく見なさい。ずっと後の私が君なのさ。
理由なんて我々にはわからない。ただ時々、君がいて、同時に私もいる……
そんな時があるものなのさ。



FASHION

大正のモードと 夢二のファッション

たそがれのキモノ 竹久夢二

一番美しいキモノはなんと言っても裸体だ。野蛮なやうだが、所詮はこゝへ落ちつく。神様は男を作った余りの泥土で女をお作りになったせい、女の方が念入りに出来た。芝居で見ても、死んだと見せてまたうらゝと化けてでるのは大抵女性だ。そのお化けがまためつそう美しい。それほど女性は美しくたんねんに出来てゐる。

中略 まことに人うたれむものかぶりあげし袂……云々、という歌を読むと、キモノもなかゝいぢらしい生存である。蓮葉に脱ぎすてた赤いスリッパの可憐なポーズ。衣桁にかけたうすもの襟裏のほのかなうす紅等々と数へあげるといさゝかフェチズムじみるが、ある刑務所で囚人が連署して、所長の目隠し撤廃を請願したことがある。刑務所の庭から見える人家の物干しに、若い女性の浴衣が干されるのを囚人にはどんなに淋しい慰めであつたといふ。中略 浴衣など干し物竿へ通したところや、脱ぎすてたところは何の風情もないやうな日本のキモノが、案外美しい感覚を私達に寄せるのはどういふわけだらう。洋風の服は、着たところはいかにも自然で肉体そのまゝの運動に添ふた美しさはあるが、さて脱いだ所はたゞの布地に過ぎないほど実用的なものだ。

中略 私どもは物のうつりかはりの最もはげしい時代に生まれたものとおもふ。すべての物の価値は半世紀をはずして逆転し或いは廃棄されてしまふ。いつも私のいふことだが、趣味とか味わひとかいふ心持はだんゝ失はれたり、忘れられて、食は腹を充たせば足り、居は寒暑に堪え見えさへよくば好い。キモノもまたそのようになってきた。くたびれた浴衣に袴をはいて下駄を鳴らして歩く女学生や、断髪頭に縞のキモノをだらんとカーテンか何かのやうに着た若い娘を見ねばならない、なんといふグロテスクな時代に、私たちはあることよ。だからと言って、私はこの新しい文化時代に反対するわけではない。私は、私の極めて懐古的な好尚を越えて、今若い娘たちの浴衣の図案を考えてゐるのである。中略

洋服はただその人の肉体にぴったりするやうな、つまり彼女のものである唯一の曲線を見出すことに仕立ての秘訣がひそんでゐる。他は布と質の色合いで、細部の飾りなどは曲線の基調から出発して考えられるはづのもので、あの人のがこの人には向かないにきまつてゐるのだ。色調もまず夏だから冬だからといふことよりも、まづ彼女に即した唯一の色があるはづだ。中略 キモノの場合は大抵背景が限られてゐるが、洋服の場合には、彼女が置かれる場合を考えなければならない。ダンシングホールか、森の小径か、電燈の下か、太陽の下か等々と。

キモノでは明石のほのかなのも好いし、紹縮緬のもつ、美しい線條も好ましいが、いづれにしても、室内で着るべきもので、太陽の下を歩くにはどうも日本のキモノは美しいものではない。夕暮れかたの打ち水をした小庭の縁先に、朱塗りのげばり下駄をはいて、水髪かなんかに二部銀の竹長をかけた女が、藍の香の高い浴衣がけの清楚な美しさはもはや我々の時代から古典にならうとしてゐる。

いささか廃退的な好みではあるが、それを「たそがれのキモノ」と呼ぼう。

後略

「たそがれのキモノ」(『婦人画報』第225号)大正13年7月



MODE

子ども服は、明治30年代から上流階級の子女達の間で、初め正月や七五三、お出かけの際晴れ着として着用された。とくに子どもの洋装化の中心は小学児童の通学服で、すでに家庭や学校では明治20年(1887)前後から、通学服として、洋服の着用が推進されていた。

子ども服の洋装化が推奨された一因に、洋服の保温性や、衛生面と、活発な子どもの活動性や、発育を考慮して、洋服が理想的だという認識が一般に広まったことが考えられる。

すでに明治末年頃には、百貨店で既製の子ども服が販売され、大正10年(1921)頃になると、本格化した子ども服の需要に応じて、銀座に子ども用衣料品店が相次いで開店した。女性誌には子ども服のデザイン特集やパターン(型紙)紹介のページが設けられ、洋装の技術を習得して子ども服を手作りする婦人もいた。

竹久夢二のおしゃれ読本 石川桂子 谷口朋子 編 より

竹久夢二美術館 <http://www.yayoi-yumeji-museum.jp/>



ANTIQUES

大正ロマンの香り漂う、
ミルクホールのアンティーク
ほのかな明かりのランプシェード
職人の細工の美しい日本の家具類等
温かさと懐かしさが交差する
日本のアンティークです

**伊万里・古陶磁
和洋家具
古民芸
アンティーク**



♠ 和洋家具

大正時代帳場筆筒
昭和初期ガラス入り本箱
教会の椅子
本棚・茶筆筒
梯子・鏡台
文机・ちゃぶ台
卓上本棚ほか

♣ 古陶磁

古伊万里なます・蛸から草茶碗
伊万里大皿・蓋碗
伊万里そば猪口・明治鉢各種
明治九谷絵皿・猪口
京焼捻り梅猪口
京焼七福神急須湯呑みセット
信楽大壺
李朝白磁・青磁

♥ 古民芸

大正時代火鉢各種
李朝円形台
大正漆器各種
糸巻き
農機具など

◆ アンティーク

大正ランプシェード各種
レプリカ照明器具各種
ランプシェード金具付
ビクター犬陶人形
▶ 珍品入荷！
ミロ版画オリジナル額入り

アクセサリー

アンティークかんざし各種
クリスタルブレスレット
色ガラス指輪・ネックレス
薔薇ピアス



TOPICS

KAMAKURA NOW

秋の鎌倉

秋も深まり、鎌倉散策の心地よい季節です。
海と山に囲まれた鎌倉は、何処を歩いても美しい
風景に恵まれたところですが、
ミルクホールから程近いところにある
『海蔵寺』は、苔むした日本庭園の美しさを満喫
できる場所かと思えます。

特に庭園内にある鎌倉時代に当時の人々によっ
て削られたと思われる鎌倉石の祠の妖しい美しさ
は、鎌倉独特の趣きがあります。

鎌倉を散策するとあちこちに見かけられる、鎌倉石の洞窟
は自然に出来たものではなく、主に墓の為に人の手によって
鎌倉石の山の岩肌を削り、作られたと言われています。

それほど、この鎌倉の地を造った鎌倉石はもろく削り易かったのでしょう。
墓の用途の他に、山を削って道を通した切通しと呼ばれている所が幾つかあります。
観光で有名な釈迦堂切通しをはじめ、稲村切通し、大仏切通しなど7つの切通しが
歴史的に有名だそうです。名越切通し、小袋谷切通しのように、現在では鉄道も通っ
ている場所もありますが、鎌倉時代のままの切通しも数多く残っており、秋の散策に
は、この切通し越えがもってこいではないかと考えます。但し、鎌倉時代の切通しは、
鎌倉を守るための激しい戦さの行われた場所でもあります。多くの手負いの武士達
が命からがら通り過ぎていったであろうところす。

何やら不思議なものに遭遇しそうな気配も、ここかしこにあるような、ないような……

LIVE

第三土曜日の夜は

ハーフムーンのライブで、
MILK HALLのBAR TIMEを
お楽しみください

11/19 Sat. pm 7:30

by 琢磨 仁 (Jin Takuma)
琢磨 啓子 (Keiko Takuma)

HALF MOONの音楽は
愛と平和を歌います。

<http://www.e-half-moon.com/>

Milk Hall 2005

ミルクホールタイムス

総集編製作中！ バックナンバーはインターネットにて。

タイムス総集編はただ今製作中ですが、なかなか編集作業に難航しています。
ミルクホールHPにて、タイムスバックナンバーコーナーで読んで頂く事ができるよう
なっています。どうぞご利用下さい。 <http://www.milkhall.co.jp>

